

# 先生の教育理念

終戦から間もない昭和22年、わずか6名の生徒とともに始まったダイワ洋裁塾。物資も乏しかった中、夫の徳一郎先生と造り上げた学舎から、学園の歴史は始まりました。女子教育の先駆者、下田歌子(実践女子大学創立者)に学んだヨシ先生の脳裏には、「社会に適応すべき実学を教授」という教育理念があったことでしょう。ほどなく本庄高等実践女学校となった学園は、時代の変遷に伴って高等学校となり共学化するなどの変貌を遂げてきましたが、その教育の根底にある精神は、現在に至るまで脈々と受け継がれています。

本校は人間の尊さを教え、社会に期待される素地を創り、人生に望みと喜びを与えるところである。

(小林学園「建学の精神」)

苦難の時代をあまたの人々とともに乗り越える中で、人間存在の尊さとその無限とも言うべき可能性を見つめ続けた先生。生徒一人ひとりを我が子のように慈しみ、その個性を伸ばして、幸多き人生を歩んでほしいと願う想いが、学園の教育理念の根本となっています。

——個性の確立、並に情操教育について特に努力し、持って生れた天性のよさをのばし、各人の特徴を向上させて行き度いとおつねづね心掛けて居ります。

昭和35年2月1日「埼玉朝日新聞」

——和・洋裁の実践女学校を開いた時、私の信念といたしておりましたことは「実践とは心の表現である」ということでした。

昭和52年10月27日「本庄東高校新聞」30周年記念特集号

——高校生の将来の夢は何か。個人差はあるが自分の持っている希望が達せられ、人間としての強い意志と経験を豊かにさせ、努力していく考えを持つ人間形成に、私学経営と私学独特な教育でつとめたい。

『はるかなる教育の道』

## 著書

『はるかなる教育の道』(単著) 平成9年11月 チクマ秀版社



建学の碑



叙勲の折、徳一郎先生と共に

桐車とは  
本校園の校章であり  
三枚の葉に  
生徒・父母・教師の輪を載せ  
三輪の花は  
勤勉・愛情・聡明を語り  
社会に期待される  
素地を創るために  
徳育・知育・体育の和を育て  
個性豊かな人格の向上をめざす  
本学園教育方針の車軸である  
小林徳一郎 辞  
小林ヨシ書

校章の由来